

日 時：令和5年11月24日（金）

時 間：10:35～11:25

場 所：体育館

指導者：T1古木 隆

1 単元名「跳び箱に挑戦しよう」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 跳び箱の基本的な動作が分かり、動きを覚えることができる。（知・技）
- (2) 飛び越えるためのポイントを基に動きを振り返ることができる。（思・判・表等）
- (3) 仲間と進んで跳び箱に取り組もうとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|---|---|
| H.M | <ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱はできないから嫌だ、という理由で苦手になっている。 ・日常生活の中で、両手で体を持ち上げるような動きをすることはあまりないため、経験もなく、難しいと思っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆進んで TV 画面を見て、説明を聞き、苦手を克服しようとする。 ☆自分から「バン（踏切）・トン（着手）・ピタ（着地）」のリズムで跳び箱を跳ぼうとする。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用では、ポイントをつかめるようにパワーポイント教材を使い、視覚的に理解しやすくしていく。 ・興味関心では、誰でも日常生活の中で、両手で体を持ち上げるような動きをすることはあまりないことを伝え、安心感を与えていく。また、得意のリズム感を大切に支援で、恐怖感を減らしていく。 ・場の設定では、主体的に取り組むことができるように選択制とし、小・中・高の3種類の跳び箱を設置していく。 |
|--|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|-------|-----------------------------------|-------------------------------------|--|
| 10:35 | 1 始まりの挨拶 | ・事前にモニターの準備をしておく | |
| | 2 活動内容の確認 | ・見通しがもてるように、活動内容をホワイトボードに記入しておく。 | |
| | 3 ラジオ体操、ランニング | ・怪我をしないように、体を温められるように十分に動かす時間を確保する。 | |
| 10:45 | 4 跳び箱を跳ぶためのパワーポイントを使っ ての説明を聞く。 | ・跳び箱のリズムをつかませていくよう、声を出す場面を設定する。 | ☆「バン・トン・ピタ」とリズムを声に出し、上手にできているところを称賛する。 |
| 10:55 | 5 パワーポイントを視 聴したポイントを確認 | ・ポイントを分かりやすくホ | ・①助走②踏み切り③手の位置 ④着地のポイントを貼る。 |

| | | | |
|-----------|----------------------|---|---|
| 1 1 : 0 0 | 6 飛び箱を選択する。 | <p>ホワイトボードに掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高の3種類の飛び箱を用意し、説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって適する飛び箱を選択できるように担任を中心に支援していく。 |
| 1 1 : 0 5 | 7 飛び箱練習 | <ul style="list-style-type: none"> ・応援の言葉掛けが仲間から出るように助言していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆跳べない場合も良いところを伝えていき、次時につなげていくようにする。 |
| 1 2 : 2 0 | 8 次回、特に挑戦したいことを記録する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントに記して、ファイルに綴じるようにする。 | |
| 1 1 : 2 5 | 9 終わりの挨拶 | | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

恐怖心や苦手意識を克服するには、慣れや経験が必要である。飛び箱が嫌いだという生徒は、たいてい運動が苦手と思われる。そして、飛び箱に対して恐怖心も根強くある。日常生活の中で、両手で体を持ち上げるような動きをすることはあまりないため、あまり運動をしない生徒にとっては難しい種目。しかし、恐怖心や苦手意識を克服には、慣れや経験がものを言うことを体験し、上手に自分の体を自分でコントロールすることができれば、楽しくなってくることを経験できるよう取り組んだ。対象生徒は、Sタイプ（小）を選択し、3段の飛び箱を跳んでみた。最初は、助走のスピードが不足し、またがってから着地する状態だったが、2回3回と回数を経っていくと自信が芽生えてきたようで、飛び箱にまたがったものの飛び越す勢いで取り組むことができた。学習プリントを見ると、助走の欄に○印をつけていた。次時に向けてやる気が出てきていると思われる。さらにこれを、他の運動に対しての意欲へもつなげていきたい。

日 時：令和5年9月21日（木）
 時 間：10：35～11：25
 場 所：高等部2年1組教室
 指導者：T1 松田知也

1 単元名「校外学習に行こう①」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) タブレット端末の活用方法を知り、作品づくりすることができる。（知・技）
- (2) 作品作りにおいて教師や仲間に分からないところを質問したり、レイアウトを考えたりして表現することができる。（思・判・表等）
- (3) 作品づくりに興味をもち、粘り強く取り組もうとすることができる。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|--|--|
| M・H | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の操作を好んでおり、使い方を同じグループの仲間に教える場面も見られた。また、好きな活動の際は集中して取り組む姿が見られる。 ・初めての活動では、分からずにそのまま進めたり、質問できなかつたりするときもある。 ・自分で時間を意識しての準備や片付けが難しいときがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆分からないところを自分から教師に質問しようとする。 ☆自分なりのレイアウトを考え、集中して取り組もうとする。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することで、興味・関心をもち、自分なりに工夫して進めることができるようにする。 ・まとめ学習で取り組む内容と守るべきポイントを明確化して提示することで、やることになり、粘り強く取り組むことができるようにする。 ・事前にタブレット端末を使用する際の約束を提示することで、分からないところや不安なところを教師に質問することを確認するようにする。 ・タブレット端末を操作、練習する時間をとってから本番の作成に臨むことで自信をもって取り組もうとする。また、9月の国語の授業でも同じアプリケーションを使ったまとめ学習に取り組んでおり、カリマネの視点から生活単元学習でも扱うようにした。 |
|---|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|-------|--|--|---|
| 10：35 | 1 始まりの挨拶 | | |
| 10：36 | 2 活動内容を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組む内容とタブレット端末を使用する際の約束を提示するようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆やることになり、見通しをもって取り組むことができるように、ホワイトボードに提示する。 |
| 10：40 | 3 タブレット端末を使って、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真を決める。 ・テーマを決め、入力する。 ・感想、名前を入力する。 ・レイアウトを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を提示することで、見通しをもって取り組むことができるようにする。 ・活動に向けて、やるべきことを再度、声掛けをする。 ・分からないことは質問するよう声掛けする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆手順を守り、正しく作成できるように具体例を提示する。 ☆質問しやすいように、教師が机間巡視を行う。 |

| | | | |
|-------|--------------|--------------------------|--|
| 11:15 | 4 途中経過を報告する。 | ・次回に向けて取り組むことを確認するようにする。 | |
| 11:20 | 5 次回予告を聞く。 | ・制作日程を提示し、確認するようにする。 | |
| 11:25 | 6 終わりの挨拶 | | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・対象生徒が好むタブレット端末の学習であることに加え、他の授業でも取り組んでいたこともあり、見通しをもって操作する様子が見られた。
- ・分からないところを自分から質問する姿、時間いっぱい取り組む姿は見られたが、アドバイスを受け入れて取り組むことに時間がかかる 때가 あった。感想やタイトルを考えられない 때가 あったが、T1が聞き取り、T2が確認することで自分の考えを明確にすることができた。
- ・次回に活かすこととしては、入力する言葉をきちんと整理してからタブレット操作するように、活動を区切って取り組んでいくことが必要と感じた。

高等部2年グループまとめ

対象生徒：M・H

研究メンバー

松田知也、中村桜、加藤万紀、古木隆

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・他の授業でも同じツール (Keynote) を使用することで、生徒が見通しをもって取り組めるようにした。
- ・視覚支援や選択肢の提示や、タブレット端末を利用することで効果的に取り組めるようにした。
- ・見通しがもてるようにするために、活動内容を事前に提示した。
- ・口頭でのアドバイスよりも視覚的に提示するようにした。
- ・考えたり練習したりする時間を十分に確保した。
- ・気持ちの切り替えのため、複数の教員が関わるようにした。
- ・本人が興味をもちそうな教材を設定した。



2 対象生徒の学びがどのように変わったか？

良かった点

- ・タブレット端末を活用することで意欲的に取り組むことが増えた。
- ・役割を与えることで積極的に活動することができた。
- ・大勢の中で発言することができた。
- ・一定時間集中して活動することができた。

課題点

- ・自分の気持ちを表現することが苦手。考えや感想をまとめる、書く活動になると固まってしまう。
- ・集中力が短い
- ・周りが気になり、話を聞いていない。
- ・アドバイスを受け入れるのに時間がかかることがある。また、何かを決めることにも時間がかかる。



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・選択肢や視覚支援などを用いた支援を行っていく。
- ・段階的に流れをおさらいしたり、整理してから記入したりするなどの手立てを取るようになる。
- ・デジタルとアナログ教材の精選。
- ・生徒のつぶやきやキーワードを教師が拾い、考えを進めていけるように支援をする。
- ・集中して活動できるように、グルーピングや場の設定を工夫する。
- ・複数の教員が関わることで、気持ちを切り替えて、課題を解決できるように支援していく。

日時：令和5年9月25日（月）

時間：9：45～10：30

場所：プレイルーム

指導者：T1本間みゆき

1 単元名「音やリズムを楽しもう」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 強弱を意識して、伴奏に合わせて歌うことができる。（知・技）
- (2) 周りの音を聴き、テンポを合わせて演奏したり、仲間の演奏を聴いて良かったところを見付けたりすることができる。（思・判・表等）
- (3) みんなで歌うことや合奏する楽しさを感じて、自分から活動に取り組もうとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|---|--|
| O・S | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、歌い慣れている曲であれば、大きな声で歌うことができる。 ・タブレット端末でピアノを弾く学習は、一学期から取り組んできたが、合奏をすることは初めてである。 ・過去にピアノを習っていたが、実態としては一つ一つ音を確認しながらゆっくりと弾く。 ・感想発表の場面では、自ら挙手して発表することは難しいと考えられるが、指名されたときは、もじもじしながらも自分の意見を述べると予想される。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆強く歌う部分が分かり、フォルテの部分では意識して大きな声を出そうとする。 ☆仲間のピアノの音を聴き、合わせようと意識しながら、自分の担当パートを弾く。 ☆他の学級の演奏を集中して聴き、良かったところを見付けようとする。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・一学期から取り組んできたICTを活用した器楽の学習を生かし、合奏練習をして発表する場面を設定し、事前に生徒へ予告することで、見通しや目標をもって練習に取り組めるようにする。 ・合奏のグループを学級にすることで、安心感をもって練習に取り組めるようにするとともに、実態に応じて演奏曲やパートを決めることができるようにする。 ・歌唱では、楽譜や動画を準備することで、音楽記号について取り上げて学習したり、曲のイメージをもてるようにしたりする。 ・仲間の演奏を聴き、感想をもったり、良かったところを見付けたりできるように、事前に感想発表のポイントや順番、具体例などを示す。 |
|--|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|------|-----------------------------|---|---|
| 9：45 | 1 集合、テーブルの準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・集合したクラスから、音1にテーブルを取りに行く。 ・事前にテレビやタブレットを準備しておく。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆強弱を意識して歌えるように、大きな声で歌う部分でfカードを提示する。 |
| 9：50 | 2 始まりの挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてるように、活動内容を板書しておく。 | |
| 9：51 | 3 活動内容の確認 | | |
| 9：55 | 4 歌唱 ①「校歌」 ②「栄冠は君に輝く」 | <ul style="list-style-type: none"> ・より声が出るように、歌うときの姿勢や口の開き方を確認する。 ・強弱を意識して歌えるように、fの部分を確認する。 | |

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 10:02 | 5 ピアノの練習 | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって活動できるように、初めに練習の終了時刻を知らせる。 | |
| 10:12 | 6 発表会、演奏を聴いて感想発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・発表会の流れや発表の順番を最初に説明する。 ・感想は良かったところを発表することを初めに伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆周りの音に合わせて演奏できるように、個に応じて担当パートを設定する。 ☆集中して聴き、演奏の良かったところを見付けられるように、感想発表の順番や発表の具体例を示す。 |
| 10:27 | 7 終わりの挨拶、片付け | | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・発表のグループを学級にしたことで、安心感をもってこれまでの練習に取り組むことができた。また、発表会という目標を掲げたことで、その目標に向かって練習を積み重ね、個人のピアノの演奏技術も高まった。
- ・自分の中で上手に弾きたいという気持ちが徐々に高まり、うまく弾けないときは悔しがる様子も見られるようになった。
- ・発表会のリハーサルでは、感想を発表することはなかったが、本時では、自分たちの発表を控え緊張していたにもかかわらず、自ら挙手をして演奏を聴いた感想を発表することができた。

日 時：令和5年7月20日（木）
 時 間：13：30～14：20
 場 所：体育館
 指導者：T1加藤隼

1 単元名「たてとくばやしを踊ろう」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 前ばやしの基本的な動きが分かり、動きの一部分を覚えることができる。（知・技）
- (2) 前ばやしについての、ポイントを基に動きを振り返ることができる。（思・判・表等）
- (3) 仲間と進んで踊りに取り組もうとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|---|--|
| O・S | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、体づくり運動や陸上競技、運動会の競技練習に取り組んできた。球技やダンスが好きである。 ・たてとくばやしは、1・2年時に毎年踊ってきた経験があり、概ね振り付けを覚えている。 ・初めてや苦手と思う活動に、消極的なところがある。 ・今回取り組む前ばやしは、今年初めて取り組む踊りのため、踊り方に不安な気持ちをもつことが予想される。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆教師の手本を見て、振り付け練習に取り組む。 ☆動画を視聴し、踊りのポイントを基に、良い点や改善点を振り返る。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・前もって、前ばやしを踊ることを予告して、気持ちを高めておく。 ・前ばやしの踊りのイメージがもてるように、動画を準備する。 ・初めての踊りになるので、振り付けをゆっくり丁寧に伝えながら練習する。 ・ICTを活用し、タブレットで動画撮影を行い、自分の動きを振り返られるようにする。 ・自分の踊りについて振り返られるように、踊る際のポイントを提示する。 ・繰り返し練習することで、振り付けを少しずつ覚えられるようにする。 |
|---|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|-------|---------------|--|---|
| 13：30 | 1 始まりの挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に動画視聴の準備をしておく ・見通しがもてるように、活動内容をホワイトボードに記入しておく。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ゆっくりした動きで練習する。 ☆上手にできているところを称賛する。 |
| | 2 活動内容の確認 | | |
| | 3 ラジオ体操、ランニング | <ul style="list-style-type: none"> ・怪我をしないように、体をほぐすようにする。 | |
| 13：40 | 4 前ばやしの動画視聴 | <ul style="list-style-type: none"> ・振り付けについて簡単に解説する。 | |
| 13：45 | 5 前ばやしの練習 | <ul style="list-style-type: none"> ・動きを一つずつ確認してから、曲に合わせて踊る。 ・練習の様子を動画撮影する。 | |

| | | | |
|-------|---------------------|-----------------------------|----------------------------------|
| 14:00 | 6 動画を視聴し、良い点や改善点を確認 | ・踊りのポイントを提示し、意識できるよう言葉掛けする。 | ☆動画を視聴し、踊りのポイントを基に、良い点や改善点を振り返る。 |
| 14:10 | 7 前ばやしを踊る | ・ポイントを意識して踊れるように再確認する。 | ☆上手な部分を伝え、次回につなげるようにする。 |
| 14:20 | 8 終わりの挨拶 | | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・興味をもち、意欲的に前ばやしの踊り練習に取り組むことができた。動画を視聴することで踊りのイメージをもち、振り付けをゆっくり確認することで踊ることができた。また、みんなで初めて踊るということで、抵抗感が薄れたように感じる。
- ・朝の会で、担任より保健体育の学習について話したことで、見通しをもったり、安心したりすることができた様子だった。
- ・自身の踊りを撮影した動画を視聴した際に、「むずかしい、できない。」と消極的な発言をすることはあったが、担任から励ましを受けることで、その後の練習にも主体的に取り組んでいた。
- ・踊りのポイントを提示したことで、意識しながら踊る様子が見られた。

高等部3年 保健体育科 略案

日時：令和5年11月 2日（木）

時間：13:30～14:20

場所：体育館

指導者：T1 安達由芳

1 単元名「サーキットトレーニングをしよう」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 器械・器具を用いた基本的な運動の行い方が分かり、時間いっぱい自主的に運動することができる。（知・技）
- (2) 多様な運動に挑戦する楽しさや喜びを味わう為に、自分の能力に合ったコースを選ぶことができる。（思・判・表等）
- (3) 集団で運動するときのルールやマナーを守り、仲間と協力し楽しみながら運動しようとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|--|--|
| O. S | <ul style="list-style-type: none"> ・サーキット運動は、昨年も取り組んでおり、器械や器具を用いた運動は一通り経験があるが、コース内容変えた上での1周は、本時がはじめてである。 ・三つのコーナーを2コース（Aコース：難、Bコース：易）とも練習することができている。 ・他の生徒のレベルに合わせて運動をする傾向がある。 ・対象生徒にとって、リードしてくれるような生徒と一緒に取り組むことで、本来の能力に応じた活動ができると予測される。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆自分でコースを選び、意欲的にコースを1周しようとする。 ☆仲間が取り組んでいる姿を見て良い点を見付けたり、自分の改善点に気付いたりする。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、学級ごとにコースを1周することを予告することで、見通しをもち練習することができるようにする。 ・生徒の実態に応じて選択できるようなコース内容を設定する。（Aコース：難、Bコース：易） ・各コーナーの練習を学級ごとにすることで、安心して練習に取り組み、実態に応じたコース選択ができるようにする。 ・学級ごとにコースを1周する際、対象生徒が積極的に運動に取り組めるよう、一緒にコースを周るメンバーを意図的に選定する。 ・仲間の取り組みを見て、良かった点や、自分自身の取り組みにも生かすことができるような点に気づけるよう、振り返りの場面を設定する |
|---|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|-------|---|--|--|
| 13:30 | <ul style="list-style-type: none"> 1 始めの挨拶 2 活動内容の確認 3 ラジオ体操、ランニング（3分） | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてるように、白板に活動内容を提示しておく。 ・けが防止の為、体をほぐす。 ・準備時間の短縮の為、ランニング中に手の空いているTは、マ | <ul style="list-style-type: none"> ☆事前に学級ごとにコースを1周することを予告しておく。 ☆事前に振り返りの視点を明示する。 |

| | | | |
|-------|----------------|---|---|
| 13:40 | 4 サーキットトレーニング | <p>ット×4をステージ脇の階段の下へ、ハードル大×3を用具室入り口付近へ移動させておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーの確認をする。 (白板に提示) ・学級ごとに前回と同じコーナーの準備をするよう指示する。 (準備物は白板に提示) ・教師がポイントを絞って手本を示す。 (サイドステップ、前転、ドリブル) ・学級ごとに1コーナーずつ練習する。 ・3分間で次のコーナーへ移動する。 ・コースを1周する際の順番を学級ごとに決めておく。 ・音楽を流し、楽しくリラックスした雰囲気の中で活動できるようにする。 | <p>☆上手にできている点を称賛し、生徒が主体的にコースを選択できるように言葉掛けする。</p> <p>☆対象生徒が事前にリクエストした曲を流し、意欲を喚起する。</p> <p>☆模範生徒を参考にし、自らの動きに生かすことができるようにする。</p> |
| 14:10 | 5 学級ごとに1周通して行う | <ul style="list-style-type: none"> ・1学級終わるごとに、上手だった生徒1～2名に模範を示してもらう。 | |
| 14:20 | 6 振り返りをする | | |
| 14:10 | 7 後片付け | | |
| 14:20 | 8 終わりの挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の良いところ、次に自分が頑張りたいところを確認し、次回に繋げていく。 ・学級ごとに準備したものを片付ける。 ・次回はコース内容を少しレベルアップすることを予告する。 | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事前に担任からの言葉がけを受けることで、学級ごとの練習でもコースを1周する際も、積極的に取り組む姿が見られた。 ・サイドステップやハードルに難しさを感じBコースを選択したようだが、最終コーナーで、Aコースの運動でもできると自己判断し、コース変更をしていた。 ・模範生徒に指名され、嫌がることなく笑顔で取り組み、床に膝をぶつけてしまっても止まることなく最後まで活動することができた。 |
|---|

日 時：令和5年9月21日（木）
 時 間：10：35～11：25
 場 所：陶工室、高等部3年3組教室
 指導者：T1 前野優太

1 単元名「修学旅行に行こう② ～しおりを作ろう～」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 情報機器の基本的な操作方法を知りその技能を活用してしおりを作成することができる。（知・技）
 - (2) しおり作りを通して社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができる。（思・判・表等）
- ※「学びに向かう力・人間性等」は別時にて評価する。

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|---|--|
| O・S | <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行に行くことに期待感をもっており、積極的に発言をして学習に取り組もうとする姿が予想される。 ・調べ学習に積極的に取り組み、行き先について詳細に調べようと、タブレットや旅行雑誌を活用することができている。 ・思ったことをすぐに口走ってしまったり、友達の発言にかぶせて同じことを発言したりして、意図せずに周りの人の気分を害してしまうことがある。 ・周りの意見を理解できずに、自分本位のしおりを作成してしまう可能性もある。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆自分の意見を述べ、文字の大きさや色、写真を提案しながらしおりを作成する。 ☆友達の意見にも耳を傾け、協力して、しおりを作成しようと取り組む。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・グルーピングでは、対象生徒が積極的に学習に取り組むかつ友達への配慮も必要になるようなメンバーを設定する。 ・ICTの活用では、日ごろから使っているスマートフォンと類似した感覚で操作をして、しおりづくりができるように、タブレットを活用する。また、操作方法の説明は全体の場で確認する。 ・授業の流れの確認では、対象生徒がどんなことに留意して取り組むとよいのかがわかるよう、あらかじめポイントを示しておく。 |
|---|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|-------|-----------|--|--------------------------------------|
| 10：35 | 1 始まりの挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に説明のためのテレビやタブレットを準備しておく。 ・見通しがもてるように、活動内容をホワイトボードに記入しておく。 | ☆主体的に考え作成するために、例示はあくまで簡単に作成できるものにする。 |
| 10：36 | 2 活動内容の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しが持てるよう、事前に教師が作成したものを例示する。 ・タブレット活用の仕方を、簡単に説明する。 ・タブレットを活用するところだわって学習を行うことが難し | |

| | | | |
|-------|-------------------|---|---|
| 10:46 | 3 学級ごとに分かれてしおりの作成 | <p>い生徒もいるため、旅行雑誌の活用も可能とすることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のポイントを確認する。 ・学級に戻ってからグループを説明する。 | <p>☆自分で確認しながら話し合いが行えるように、ポイントをホワイトボードに掲示する。</p> <p>☆構想をより具現化できるように、教師自身が操作法を理解し適宜支援を行えるようにする。</p> |
| 11:20 | 4 各グループの進行度合いの確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・テレビに投影して確認する。 | <p>☆作成したものに自信をつけ、さらなる改善が行えるように、称賛の言葉がけをする。</p> |
| 11:25 | 5 終わりの挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・一度休憩の時間をとるが、4時間目も学習を継続することを伝える。 | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・自分の意見を述べ、協力して一つのしおりを作り上げようと努力していた。
- ・友達の見解に共感するだけでなく、疑問に思ったことは質問する力がついてきた。
- ・自分の伝えたい思いを正確に伝える力が不十分で、誤解や勘違いを生むような発言が見受けられるときがある。考えを整理する力が必要だと感じた。

高等部 3年 生活単元学習 略案

日 時：令和5年11月24日（金）

時 間：10：35～11：25

場 所：高等部3年3組教室

指導者：T1川村保子

1 単元名「現場実習の振り返りをしよう」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 作業をするときに必要な態度について理解することができる。（知・技）
- (2) グループでの活動のときに、自分の言葉で表現することができる。（思・判・表等）
- (3) グループの仲間の意見を聞きながら、自分に必要なことを考えようとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|--|---|
| O・S | <ul style="list-style-type: none"> ・お礼状を書くときの時候のあいさつ調べは、タブレットを活用することができるが、どの言葉にするかは自分で決めるまで時間がかかる。 ・自分でよく考えず、友達の発言と同じことを発言することが多い。 ・自分の考えに自信がないと、教師から声を掛けてもらうまで視線を送ってることが多い。 ・来週「地域特産開発研究所（ココカフェ）」で現場実習することを楽しみにしているが、緊張もしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆自分から発言や質問をする。 ☆仲間の意見を聞きながら、グループでワークシートに取り組む。 ☆先週の実習を振り返り、来週の実習に期待感をもつ。 ☆お礼状書きで、自分の気持ちや考えを取り入れながら書く。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・安心して学習に取り組めるように、授業以外のところでも言葉掛けを行う。 ・自信をもっていいと気づけるように、実習中の成果を学級の話題にする。 ・実習中の成果を学校でもできるように、同じような場面で活かす。 ・授業の流れの確認では、見通しがもてるように、具体的に示す。 ・自分から教師に依頼や報告ができるように、伝え方の手本を示す。 ・自分から発言できるように、グループのメンバー構成を配慮する。 ・自分で決められるように、選択式にしたり、決めやすい言葉掛けをしたりする。 ・発表することに自信がもてるように、グループでの活動を発表する機会を設定する。 |
|--|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|-------|---|--|--|
| 10：35 | 1 始まりの挨拶 2 授業の流れを知る ①グループ活動 ・ワークシート ・発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けは、見てわかるように図示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆見通しがもてるように、朝の会で内容を伝える。 ☆授業の見通しがもてるように、大まかに活動内容をホワイトボードに書く。 ☆各活動の見通しがもてるように、説明のときに具体的な話や図示をする。 |

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|---|
| | ②お礼状書き 報告会の準備 履歴書 | | |
| 10:40 | 3グループで集まる 4ワークシートに取り組む | <ul style="list-style-type: none"> ・3人グループにする。 ・T1：対象生徒のグループ ・T2：別のグループ <ul style="list-style-type: none"> ・グループの3人で考えられるように、答えは選択式や書き込み式など用意する。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆自分から話せるように、話を聞くのが上手な仲間をメンバーにする。 ☆話しやすい雰囲気をつくる。 ☆イメージしやすいように、実習先の仕事内容をワークシートに取り入れる。 ☆意欲的に取り組めるように、出題の難易度を調整する。 ☆自分から発言できるように、考える時間を十分確保する。 ☆自分から質問できるように、いつでも言っていることを伝え、言い方の例を掲示する。 <p>☆挙手して発言できるような言葉掛けをする。</p> |
| 11:00 | 5発表する | <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で決める。 ・発表者は前に出て発表する。 ・全員が発表できるように、時間によっては指名する。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆質問や依頼が自分から言えるように、必要なフレーズを掲示する。 ☆お礼状を書くときのヒントになるように、実習ノートにふせんやマーカーで印をつける。 |
| 11:10 | 6各自の活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・席を戻してから、各自の活動に取り組む。 ・内容や進度が異なるので、個別の支援をする。 | |
| 11:25 | 7終わりの挨拶 | | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・授業の前日や当日の朝など、事前に授業内容を簡単に伝えておくことで、見通しをもって授業に取り組むことができた。
- ・聞き方が上手な生徒を同じグループにしたことで、自分から話し始めることができた。
- ・グループで話し合いをすることで、自信をもって他グループへ発表をすることができた。
- ・自分の考えを自分から伝えようとする意識が芽生えてきた。

日 時：令和5年11月21日（火）
 時 間：13:30～14:20
 場 所：高等部学習室
 指導者：T1 清野 英美

1 単元名「販売会に向けて製品を作ろうⅡ」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 糊の付け方やカッターの使い方に気を付けながら、作業を進めることができる。（知・技）
- (2) 仕上がりを確認したり、教師に報告したりして作業に取り組むことができる。（思・判・表等）
- (3) 仲間と協力し、最後まで意欲を持続させながら作業に取り組もうとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

| 対象生徒 | 単元での実態（予想される姿・課題等） | 期待される主体的に活動する姿 |
|------|--|--|
| O・S | <ul style="list-style-type: none"> ・ポチ袋の糊付けや便箋作りの大まかな工程を覚え、自分から作業に取り組もうとする。 ・ポチ袋の糊付けは、他の部分に糊が付かないように板を当てて糊を付けている。時々板を外して糊を付けてしまい、糊がはみ出してしまうことがある。 ・便箋作りでは、カッターの刃が定規からずれたり、切っているうちに定規が曲がったりすることがある。ゆっくりカッターを動かしたり、立って切ったりすると曲がらずに切れることに気付き、取り組んでいる。 ・点検の依頼など、自分から教師に報告するようになってきたが、事前に伝えておかないと報告せずに次の仕事を進めてしまうことがある。また、不良品を見つけても、教師に報告せずにそのまま作業を進めてしまうことがある。 ・仲間の様子や声が気になり、集中できないことがある。また、自身の体調や周りの状況に左右され、活動に支障がでることがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆糊やカッターを使った作業に、仕上がりを意識しながら丁寧に取り組むことができる。 ☆仕上がりを自分で確認し、自分から教師に報告することができる。 ☆頑張ったことや上手くできたこと、アドバイスをもらったことなどを振り返り、日誌に記入することができる。 |

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒が安心して学習に取り組めるようなメンバーを設定する。 ・自分たちで紙すきをした紙を使用することで、意欲を高める。 ・作業を開始する前に、対象生徒がどんなことに留意して取り組むとよいのかがわかるよう、ポイントを示したり、報告するタイミングを伝えたりする。 ・生徒が自分から教師に報告できるように、教師の近くに席を配置する。 ・反省会で、頑張ったことや出来栄をを発表する機会を設定し、教師や仲間から称賛されることで次回への意欲に繋げる。 |
|---|

5 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | ・指導上の留意点 | 主体的に活動するための支援と手立て |
|-------|-----------|---|-------------------|
| 13:30 | 1 始めの挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・午後の作業内容や作業場所をホワイトボードに記入しておく。 | |
| | 2 活動内容の確認 | | |
| 13:40 | 3 作業Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに作業に取り組むこ | |

| | | | | |
|-------|---|--------------------------|---|---|
| | | ポチ袋のり付け 便箋作り パルプ切り | とができるように、用具を準備しておく。 ・集中を持続させながら作業できるように、複数の活動を準備しておく。 ・和やかな雰囲気で作業ができるようにしつつも、集中して行えるように言葉掛けをする。 | ☆どんなことに留意して取り組むとよいかがわかるよう、作業を開始する前にポイントを伝える。 ☆自分から教師に報告できるように、報告の仕方を事前に伝える。 ☆出来栄を自分で確認できるように、点検の際に一緒に確認する。 ☆生徒が自分から教師に報告できるように、教師の近くに席を配置する。 |
| 14:10 | 4 | 片付け 反省記入 | ・自分の使った道具片付け、日誌記入をする。 | ☆今日意識して取り組めたことを日誌に記入できるように、個別に言葉を掛け、活動を振り返られるようにする。 |
| 14:17 | 6 | 反省会 | ・頑張ったこと発表したり、出来上がった製品を紹介したりする。 | |
| 14:20 | 7 | 終わりのあいさつ | | |

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・静かな環境で自分の仕事に向き合うことができ、集中してポチ袋の糊付けに取り組むことができた。
- ・糊付けなど、一つの仕事を継続して取り組むことで、本人も自信をもって取り組むことができるようになってきた。
- ・事前に報告の仕方を確認することで、勝手に判断して仕事を進めることなく、自分から教師に点検を依頼するようになってきた。
- ・お守りとして、報告の仕方を書いた紙を近くに置いて作業に取り組んだことで、適切な言葉で報告することができた。

研究メンバー

加藤隼、清野芙美、本間みゆき、安達由芳、川村保子、前野優太

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・安心して学習に取り組めるように、授業以外のところでも言葉掛けを行った。
- ・グルーピングでは、対象生徒が積極的に学習に取り組むかつ友達への配慮も必要になるようなメンバーを設定した。
- ・タブレット端末を活用し、日頃から使っているスマートフォンと類似した感覚で操作をして、制作活動ができるようにした。
- ・自分の能力、意欲に応じて選択できるようなコース設定をしたり、コーナー練習、コース1周といったように、段階的に練習できるようにしたりした。
- ・発表することに自信がもてるように、グループでの活動を発表する機会を設定した。
- ・イメージがもてるように、動画を準備したり、タブレット端末を使って動きを振り返ったりした。
- ・感想発表の場面では、発表のポイントや具体例を提示することで、感想をもったり、良かったところを見付けたりできるようにした。



2 対象生徒の学びがどのように変わったか？

良かった点

- ・自分の意見を述べ、協力して制作活動に取り組もうと努力していた。
- ・友達の意見に共感するだけでなく、疑問に思ったことは質問する力がついてきた。
- ・最終コーナーで、難しいコーナーを選択しゴールすることができた。
- ・グループで話し合いをすることで、自信をもって他グループへ発表をすることができた。
- ・自分の考えを自分から伝えようとする意識が芽生えてきた。
- ・消極的な発言はあったが、支援を受けて自信をもって活動することができた。
- ・自分の中で上手に弾きたいという気持ちが徐々に高まり、うまく弾けないときは悔しがる様子も見られるようになった。

課題点

- ・自分の伝えたい思いを正確に伝える力が不十分で、誤解や勘違いを生むような発言が見受けられるときがある。考えを整理する力が必要。
- ・作業中に、依頼された作業が終わったときや間違えたときに、自分から報告することが難しく、自己判断で作業を進めてしまう。



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・自分から考えを言う機会を作る。
- ・より自身で考える場面をつくる。
- ・報告のタイミングや報告の仕方について確認し、実践を繰り返す。